



～つなぐ～

医療法人 橘会
東住吉森本リハビリテーション病院

2018. 4

Vol.3

院長のごあいさつ



東住吉森本リハビリテーション病院

院長 服部 玲治

平成30年4月。このタイミングで回復期リハビリテーション病院の院長を仰せつかったことに、取るに足らない患者の大言壯語と知りつつも、運命と使命を感じますと言わずにはおれません。

申し遅れました、この度、東住吉森本リハビリテーション病院の院長に就任いたしました服部と申します。これまで、原前院長を始めスタッフが紡いでこられた、温かいリハビリテーション病院を踏襲しつつ、今後の発展に一意専心微力ながらも貢献出来ればと願っております。

閑話休題。この号が出る4月には、日本の将来を賭けた「第7次医療計画」「第3期医療費適正化計画」「第7期介護保険事業計画」がスタートし、「診療報酬と介護報酬の同時改定」が行われます。即ち、“惑星直列”とも比喩される、史上初めてのトリプル計画・ダブル改定の年であり、さまざまな医療介護の施策がシンクロし、この国の大改革が始まるのです。トリプル計画の「第7次医療計画」では、地域医療構想を具現化するために、病院病床を2025年の医療需要に適合するように再編成を図っています。その再編成とは、おおざっぱに言うと急性期から回復期への病床転換、慢性期から在宅医療へのシフトということになります。そして、「第3期医療費適正化計画」では、この地域医療構想に沿った形で、入院医療費の目標を立てています。さらに、「第7期介護保険事業計画」では、地域包括ケアシステムを推進するこれらの医療サイドの改革を踏まえ、在宅で出来る限りの対応が可能となる医療介護連携の確立を目指しています。

一方、ダブル改定では、「診療報酬改定」で、病院病床再編とかかりつけ医や在宅医療の推進が図られています。また、「介護報酬改定」では、予防、自立支援、在宅重度者への対応、退院時支援などが推進されています。このように、トリプル計画・ダブル改定は、少子高齢化の果て国が滅亡しないための医療介護政策の大きな節目、画期的な政策転換といえます。平成30年4月は運命の分かれ道の始まりなのです。

(コラムに続く・・・)

医療相談室

病気や怪我をすると、いろんな不安や心配事が出てきませんか？

医療相談室には3名の医療ソーシャルワーカー（MSW）がいます。

全員、社会福祉士と精神保健福祉士の資格を持っています。



ご相談は・・・当院1F受付（相談室）

またはTEL 06-6701-2121(代)

尾崎・中井・鬼追まで

災害訓練

平成30年3月4日に震度5弱の地震を想定した大規模災害訓練を行いました。実際に模擬患者を避難誘導したり、連携の確認を行いました。



全体での打ち合わせ風景



模擬患者を避難させています



治療の優先順位を決めています



役割を分担しています



情報収集したことを報告しています



模擬患者を搬送するところです

南海トラフ巨大地震

5年以内にM8~9クラスの巨大地震が発生する確率が70~80%へ引き上げられました。政府は地震発生時の予想死者数は33万人と発表しています。私たちも、他人事ではなく備えが必要です。各自治体で避難場所の確認もしておきましょう！

防災グッズを準備していますか？

自宅に防災バックなどを準備していますか？飲料水や非常食、医薬品、停電時用具、衣類や寝具など非難に必要な物をまとめて準備しておくことが大切です。また、定期的な見直しや確認も行いましょう。

病棟レク

入院生活の中で少しでも楽しい時間を過ごして頂きたいと思い、当院では1週間に2回、病棟でレクリエーションを行っています。リハビリスタッフと病棟スタッフが協力し、頭を使う遊びや体を使う遊び等を組み合わせながら実施しています。



季節に応じた歌を患者さんと歌っています



“桜桃”的読み方を考えています



男子チームで玉入れをしています



運動の後の体操です



普段の生活の中でできなかったことが、レクリエーションを通じて発揮できたりと、患者さんの違った一面が見れるのでスタッフも一緒に楽しんでいます。

コラム

院長のごあいさつの続きのお話

東住吉森本リハビリテーション病院

院長 服部 玲治



今回はいつもの気軽なコラムとは違い、少しまじめなお話にお付き合いください。

前述（新院長挨拶）の2025年とは、団塊の世代が一挙に後期高齢者となる超高齢社会の節目の年です。その医療需要とは、これまでの「治す医療」から「支える医療」への変換、言い換えると、高齢者が出来る限り入院せずに、家の生活を続けていくための地域包括的支援システムを作り上げることです。人が健康に生活するためには、病気の予防、治療、回復のためのリハビリテーション、そして健康の維持が必要です。これまでの医療は、治療にばかり目が行っていました。しかし、「支える医療」では、①そもそも病気にならないように予防すること、②病後に生活が出来るようにするための回復期リハビリテーション、③生活復帰後に健康維持を支える体制の整備が重要なことです。我々は、回復期リハビリテーションを担っています。リハビリテーション専門病院として質の高い回復期のリハビリテーションを追求するのは勿論のこと、退院後の生活維持のために地域と密度の高い連携が構築出来る「開かれたリハビリテーション病院」を目指します。それが使命です。この冊子の名前は「つなぐ」です。地域がつながって、目の前にある難局を乗り越え、我々は安心して年を取ることが出来る、子や孫は希望が持てる、そういう世の中にしていきましょう。皆様、東住吉森本リハビリテーション病院をお見知りおきのほど、何卒宜しくお願ひいたします。

栄養科

花粉症

【食事のポイント】

免疫機能を維持し症状を防ぐ栄養素をしっかり摂取

花粉症を完治させることは難しいことですが、食生活の改善により、症状の緩和は可能です。

ビタミンB6には免疫機能を正常にする働きが、かつおやまぐろ、さけなどの動物性たんぱく質に豊富です。ただし、たんぱく質のとりすぎは症状を悪化させるので要注意。

また、抗酸化作用のあるビタミンCは、炎症やかゆみに有効。

ビフィズス菌にはビタミンB6を合成する作用が、緑茶に含まれるカテキンには症状を引きおこす物質を調整し、症状を緩和する作用があります。

おすすめの食材！



●ブロッコリー

抗酸化作用のあるビタミンCが豊富。熱に弱いのでサッとゆでて。



●緑茶

緑茶に含まれるカテキンはアレルギー症状を緩和。濃いめにいれて。



●やまいも

独特のネバネバが、鼻の粘膜を強くしてくれます。



●かつお

免疫機能を高めるビタミンB6が豊富。加工品は避け、新鮮な食材を。

医療法人 橋会 理念

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

東住吉森本リハビリテーション病院 基本方針

1. 患者さんと共に障害の克服に努め、家庭や社会への復帰を目指します。
2. 全人的医療を行うため、全職員が連携して患者さん一人一人に統合的アプローチを行います。
3. 地域医療機関と連携し、患者さんとそのご家族を支える環境構築に協力して、暮らしを応援します。
4. 職員が意欲を持って働くことのできる病院を目指します。

編集後記

編集者 島田 瑞樹

寒い冬が過ぎ、ようやく暖かくなってきました。いよいよ新しい季節がやってきたという感じです。昨年9月に発刊が始まった「つなぐ」も3号目を向かえ、少しずつ当院の中での様子や取り組みをお伝え出来てきたなと感じています。昨年度は当院が大きく動き、様々な部分で変化がありました。病院の中だけでなく、実際に当院のリハビリスタッフが市役所や会館などに行かせて頂き、介護予防に関する話しや体操等の催し物もさせていただきました。今後はそのような取り組みが増え、地域の皆様にお伝えできるよう、編集等も頑張っていきたいと思っております。

病院概要

〒546-0022 大阪市東住吉区住道矢田 4-21-10

TEL 06-6701-2121 (代)

URL <http://www.tachibana-med.or.jp/morimoto-riha/>

<病院までのアクセス>

- ◆近鉄南大阪線 矢田駅から徒歩 約15分
- ◆大阪市バス 天王寺から住道矢田下車 約2分
- ◆北港観光バス 西田辺から住道矢田8丁目下車 約3分

